

解答

一

- (1) 対策 (2) 補「う」 (3) 仮設 (4) 望遠鏡 (5) 採用

二

- (1) 鳥 (2) 手 (3) 他山 (4) 不要 (5) 危・一

三

問一

エ

日本側が発信したいことよりも、受け手の側が知りたいと思っている日本文化を発信することへと意識を変え、海外での日本文化の受け入れられ方や関心の持たれ方をもっと知る（ことが必要。）

問二

ウ

問三

味覚

問四

海外の人々の、認証制度により日本の食文化を押しつけられることへの反発。

問五

現地の人々の味感に合わせる（という考え方。）

問六

イ

日本に行かなくても日本文化を自国で楽しんだり、日本語を学ばなくても日本の文学を自国の言葉で読んだりするようになってきている。

問七

- A イ B ア C エ

四

問一

ウ、エ

問二

イ

問三

ア

問四

彼女の姉さ

問五

何不自由ない暮らし。

問六

エ

問七

史実に基づき自分の頭で考え感じることによって、人間がこれから先、どう生きていくべきか、幸せとはどんなことなのかを追求し、世界に目を開き、自分の意見を持つため。

問八

ウ

問九

いろいろなことを勉強して、頭や心を動かして、自分の感性を豊かにし、幸せを感じる心を育て、幸せになつてその幸せを人にわけてあげられる人間になるということ。

解説

三

問二

このパラグラフの最後に「受け手の側から日本文化がどう見えているか、また、日本文化が現地でどのように人々に届けられているのか・受け手の側の専門家や読者はどのような関心を持っているのか、などのことを、もっと知る必要があるのではないだろうか」と述べられています。

四

問九

カルザス氏の「自分を構築するというのは、自分の感性を豊かにして幸せを感じる心を育てるということなんだよ。幸せになつて、その幸せを人にわけてあげられる人間になるということだ。」「いろいろなことを勉強して、頭の運動、心の運動をすることが君たちの義務なんだよ」という言葉で言い表されています。